

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月18日現在

機関番号：32306

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530636

研究課題名（和文）近代日本教育心理学における「教育病理」の系譜と心理・教育ジャーナリズム

研究課題名（英文） A Historical Analysis the Information on Educational Pathology in the Psychological and Educational Journals in Pre-World War II in Japan

研究代表者

下山 寿子（SHIMOYAMA TOSHIKO）

高崎商科大学・商学部・教授

研究者番号：30287908

研究成果の概要（和文）：日本の現実に照らし、発達障害、情緒・精神障害、学校不適応、反社会的行動等の児童の精神欠損の理解を通して、児童・生徒の生き方とそれへの援助を行う等、いわゆる近代日本教育病情報の提供に大きな役割を果たした雑誌メディアの性格を歴史的に解明した。教育病情報から各雑誌メディアの書誌的分析を試みた点に独創性を見出した。今回の研究では教育病情報にあらわれた日本の学校化過程研究という視点が発見できた。

研究成果の概要（英文）：This study explored the major role played by the information on Educational Pathology in Japan before WWII in career planning and support for children and students. We examined from the perspective of the follower four, developmental disorder, emotional disturbance or mental disability, school maladjustment and antisocial behavior. The significance of this study is twofold. First this research attempted to address a bibliographical investigation of the Psychological and Educational Journals. The second major contributions of this study was that it added to deschooling society on the Educational Pathology.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：臨床心理学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：心理・教育ジャーナリズム、教育病理、情緒・精神障害、発達障害、反社会的問題行動

1. 研究開始当初の背景

（1）本研究は、「近代日本心理学における『教育病理』の系譜と教育ジャーナリズム」というテーマのもとに明治中期から昭和戦前期を対象時期として、心理・教育ジャーナリズムの中でも雑誌メディアが発信

した教育病情報を、幼児・児童・生徒・保護者を含み込んだ近代日本人の心理的障害、すなわち「発達障害」「情緒・精神障害」そして「不登校」などの「学校不適応」や少年非行などの「反社会的問題行動」などという角度から歴史的に検証することを

目的とする。

(2) ここでいう「教育病理」とは、従来、指摘されているような教育等の結果において生じる問題状況や現象という概念を含みながらも、幼児・児童・生徒の心理的障害全般を指す。言葉を換えて言えば、もう少しこの概念を広くとらえ「発達障害」「情緒・精神障害」「学校不適応」「反社会的問題行動」などの児童の「精神欠損」を指す。「教育病理」情報とは、単純に諸雑誌が発信する「教育病理」関連の言語情報という意味において用いる。即ち、日本の現実にてらして、「発達障害」「情緒・精神障害」「学校不適応」「反社会的問題行動」などの心理的障害という現象の理解にとどまらず、それらの問題行動を通しての児童・生徒の生き方あり方について明らかにしてゆきたい。教育病理の体験や雑誌メディアを通して獲得した第二次的経験をもとに、如何に概念化され、原因の究明に如何に支援しようとしているのか。そしてどのようにして、それらの教育病理の克服につながる行為のもの全てをここでは教育病理という概念で用いる。従来の教育病理学に関する教育学研究においては、「学校嫌い」「不登校」「非行」「自殺」「神経症(ノイローゼ)」等の問題は、「学校化」社会が進む1965年以後の問題であるとされてきた。が、しかし、これらの問題が既に明治中期・昭和戦前期においても生起しており、不登校などの学校不適応でさえも「教育病理学」の概念に内包されていたのである。これらの問題を解く大きな一つの鍵は、歴史的洞察であると考える。

(3) このような研究関心のもとでの成果は極めて少ない。例えば、茂木俊彦「雑誌『児童研究』の分析を中心に(わが国における「精神薄弱」概念の歴史的研究)」『教育科学研究』第7号、東京都立大学教育学研究室、19

88年がある。これは画期的な研究ではあるが、明治中期から昭和戦前期に取り上げられた「教育病理」の包括的な研究には至っていない。

(4) これまで、筆者は、「近代日本における教育情報の歴史的研究」科学研究費補助金(基盤(B)平成15年度～平成18年度)、及び「近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム」科学研究費補助金(基盤(B)平成19年度～平成22年度)の研究分担者として、雑誌『児童研究』を素材として研究してきた。その成果は、①「雑誌『児童研究』の研究(1)～(3)」(『高崎商科大学紀要第19号～21号、2004～2006年)、②『受験・進学・学校—近代日本教育ジャーナリズムにみる情報の研究—』(2008年刊行予定、学文社)において発表してきた。しかし、これらの研究は全面的に完結したものとは言えない。そこで、今回の研究は、①「教育病理」情報を収集し、分析することにおき、②対象とする雑誌メディアを拡大するという試みに挑戦する、という2つを目標としたい。

(5) 対象とする雑誌メディアは、これまで対象としてきた『児童研究』から拡大する。

2. 研究の目的

(1) 先に記したように、明治中期から昭和戦前期を対象時期とし、心理・教育ジャーナリズムのなかでも雑誌メディア等が発信した情報の研究を行うことを目的とする。具体的には3つの研究目標を立て、実証的・歴史的に研究する。

(2) 研究テーマに即して近代日本において出版された心理・教育ジャーナリズム、なかでも雑誌メディアの出版状況とその種類の特徴と変化を整理・展望する。

(3) 雑誌メディア等の書誌的検討を行う。発刊の趣旨、発行主体、発行部数、執筆者、読者層、誌面構成の特色と変化を分析すると

ともに、目次のデータベース化を行い、正確な発行年月日等を明らかにする。雑誌そのものの「顔」が見えるようにする。

(4) 内容分析としては、4つの観点、即ち心理的障害としての①「発達障害」、②「情緒・精神障害」、③「学校不適応」、④「反社会的問題行動」などの選択にかかわる情報がいかに発信され、どのように読者に届けられ、いかに定着したか、あるいはしなかったかなどを歴史的に明らかにする。周知のように、戦前の日本では主に雑誌メディアを舞台として、教育病理、なかでも発達障害や情緒・精神障害、学校不適応、そして反社会的問題行動などに関する情報がさまざまに報道されてきた。その際、どのような情報が提示されたか。メディアごとの情報選択基準は何であったか、またどう変化したか。そしてそれらの情報は、子どもや青年男女、そして学校教師・保護者の心理的メカニズムやその心理療法・技術の向上をどのように方向付けたのか。こうした課題を実証的に明らかにしようと企画したのが本共同研究である。

(5) 以上の課題への取り組みを通して、近代日本教育心理学における「教育病理」の系譜において心理・教育ジャーナリズムがいかにかかわったのかを明らかにする。

3. 研究の方法

【平成20年度】

研究の性格上、かなりの拡がりをもつ作業となるので、基礎的資料の収集の段階とそれらを使った内容的研究の2段階に分ける。

(1) 各雑誌の目次と奥付を収集、記事のトピックと領域・執筆者名・編集者名・発行年月日等のキーワード等に即してデータベースを作成した。

(2) 心理・教育史研究分野だけでなく日本出版史関係研究の方法を駆使し、例えば出版社の性格、発行部数、発行人のキャリア等を

調査しデータベースを作成した。

【平成21年度】

平成21年度は、前年度の作業を踏まえ、雑誌の書誌的・内容的分析を行う一方で、発達障害、精神障害、反社会的問題行動の設定の研究に踏み出した。

(1) 各種雑誌等を研究対象として歴史的解析を行った。

(2) 各雑誌メディアの書誌的検討を行うと同時に、発達障害、精神障害、反社会的問題行動の設定という観点から各情報を整理し、データベースを作成し、次年度の内容分析に備える作業を行った。

(3) 前年度までの中間総括として、その一部を、日本心理臨床学会において発表した。また中間報告として、「5.主な発表論文等〔図書〕」に記した報告書を作成した。

【平成22年度】

(1) 対象雑誌の内容分析を深化させ研究を展開した。

(2) テーマの一貫性の維持をはかりつつ最終報告書のまとめの作業としての時間を確保した。

【平成23年度】

最終報告書の刊行をめざし、これまでの研究成果を集成し、まとめの作業を行った。

4. 研究成果

(1) 上述した通りの研究目的・方法・計画に沿って作業を続けてきた。その研究作業は幾つかの拙稿を基盤とするものであった。『高崎商科大学紀要』に連載した。それが2004年12月「雑誌『児童研究』の研究(1)－書誌的分析を中心に－」・2005年12月「雑誌『児童研究』の研究(2)－『教育病理学』欄にあらわれた教育病理－」・2006年12月「雑

誌『児童研究』の研究(3)－『論説』欄にあらわれた教育病理－」である。

(2)この一連の研究を基盤として心理ジャーナリズムとしては『心理学研究』『児童研究』等、教育ジャーナリズムとしては『教育学术界』『学校衛生』等の書誌的研究を行うと同時に各雑誌メディアに掲載された教育病理関係記事の収集と整理を行った。

(3)また「中間研究成果報告書」を刊行し、『児童研究』の総目次を復刻する作業も行った([図書]参照)。

(4)さらに、明治・大正・昭和戦前・戦中期における教育病理関係文献の収集を行い、教育病理という言葉がどのように語られているかを検討した。

(5)(1)(2)(3)(4)の基礎的な作業の流れの上に、各メディアが提供した教育病事情報の実証的・歴史的検討を上記の観点から試みた。

さらにここでは視点を追加し、日本の学校システムの整備・発展、すなわち学校化の動向との関連で教育病事情報を分析する視点を取り入れた。その研究成果は「論文」を参照してもらいたいが、「異常青少年」の職業指導、「異常青少年」等を対象とした職業指導情報を最も早く提供した『社会と教化』『社会教育』の分析を行った。また『児童研究』の「論説」欄に掲載された「心理」や不良少年等の反社会的「問題行動」情報を検討した。

その結果、これらの雑誌メディアに掲載された教育病事情報は医学関係者から最初に提供されるが、どちらかと言えば教育政策の反映を示すものであったこと、特に「学校不適応」は学校の実態におけるヒエラルヒーの成立と深く関連していたことを説いていることが判明した。その意味で言えば近代学校に誘う、更に言えば日本の近代化、教育の近代化の動向を教育病理という側面から、「異常青少年」等の学びや志をキャナライズする

有力な要因であったと指摘できた。

(6)しかし、その一方で三田谷啓が「異常青少年」の職業指導実践を行っていた。その実践の経緯と特徴をも解明した。

(7)今後の研究課題としては、「教育病理というタームの導入と原型の成立」という観点から各雑誌メディアが提供する情報や関係文献を精査する必要がある。またこれらの教育病事情報の影響の問題である。読者層の研究も行わなければならない。人々は何のように活用したか、各雑誌メディアに掲載された読書欄の分析が必要である。その意味でも未だ十分に研究成果を出せたとは言い難く、全面的に完結したものではない。

(8)そこで、今後はモノグラフィックに研究を深め蓄積していく作業を継続していく必要がある。

(9)学術的意義はこれらの雑誌メディアの書誌的検討を行ったことは一つのオリジナリティである。

(10)最終報告書を編集集中であるが、ここでは『児童研究』にあらわれた教育病事情報を中心とした。目次構成は以下の通りである。

目次

研究編

序章

第1部 雑誌『児童研究』

第1章 雑誌『児童研究』の研究(1)－書誌的分析を中心に－

第2章 雑誌『児童研究』の研究(2)－『教育病理学』欄にあらわれた教育病理－

第3章 雑誌『児童研究』の研究(3)－『論説』欄と教育病理－

第4章 雑誌『児童研究』の研究(4)－『論説』欄にあらわれた「心理」関連記事－

第5章 雑誌『児童研究』の研究(5)－『論説』欄にあらわれた「問題行動」情報－

第2部 「異常青少年」と職業指導

第6章 雑誌『社会と教化』『社会教育』
にみる職業指導情報の特質

第7章 雑誌『職業指導』にあらわれた「異常青少年」の職業指導の特質

第8章 三田谷啓と「異常青少年」の職業指導実践

結章

資料編

1. 雑誌『児童研究』の総目次

2. 雑誌『教育持論』・『教育学术界』に掲載された教育病理記事一覧

3. 教育病理関係文献一覧

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 下山寿子、戦前日本における「異常青少年」の職業指導実践の研究—三田谷啓の職業実践指導をてがかりに—、2008年度 検証・教育実習、査読無、2009、203～217頁

② 下山寿子、雑誌『児童研究』の研究(4)—「論説」欄にあらわれた「心理」関連記事分析を中心として—、高崎商科大学紀要、査読有、第24号、2009、125～133頁

③ 下山寿子、雑誌『児童研究』の研究(5)—「論説」欄にあらわれた「問題行動」情報の分析を手がかりに—、高崎商科大学紀要、査読有、第25号、2010、125～133頁

④ 下山寿子、雑誌『社会と教化』・『社会教育』にみる職業指導情報の特質、高崎商科大学紀要、査読有、第26号、2011、91～98頁

[学会発表] (計1件)

① 下山寿子、雑誌『児童研究』の研究(4)—「論説」欄にあらわれた「心理」関連記事分析を中心として—、日本心理臨床学会第28回大会秋季大会、2009、於東京国際フォーラム

[図書] (計1件)

下山寿子、近代日本教育心理学における「教育病理」の系譜と心理・教育ジャーナリズム—雑誌『児童研究』の研究—、高崎商科大学、2009

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下山 寿子 (SHIMOYAMA TOSHIKO)

高崎商科大学・商学部・教授

研究者番号: 30287908

研究者番号:

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号: